令和３年７月28日（水）
～８月22日（日）
午前９時30分～午後５時
月曜日・第２火曜日休館
市立図書館２階展示コーナー

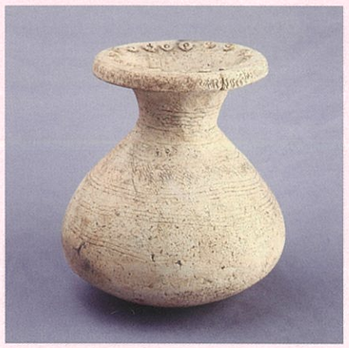
第24回
発掘展
～子どものための考古学～

下之宮遺跡出土「三槐（さんかい）」印のある輸入椀

弥生時代の久留倍遺跡（約 2000 年前）

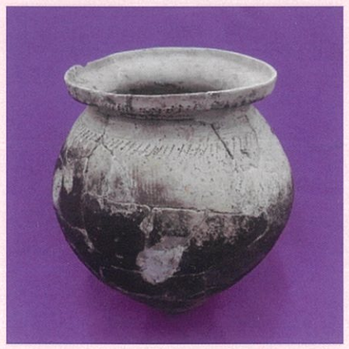
弥生時代の久留倍遺跡の想像図

大矢知町で見つかった久留倍遺跡からは、弥生時代（約 2000 年前）にあったムラも見つかっています。久留倍遺跡では、弥生時代の人びとが生活に使っていた道具類が数多く見つかっています。



【弥生土器　壺】

貯蔵に用いられた土器です。壺の表面は、模様をつけて飾られています。



【弥生土器　甕】

土器の下半分は、まっ黒に煤けています。土器の中にお米などを入れて、煮炊きに使ったためです。

【弥生土器　高坏】

食べ物の盛り付けに用いられた土器です。

古墳時代の菅野古墳群（約 1400 ～約 1300 年前）

内部地区貝家町で令和 2 年に発掘調査を行ったところ、新たに発見された古墳群です。

6 基の古墳のうち、5 基で石室が見つかりました。

石室は、いずれも横穴式石室です。

横穴式石室は、何人もの亡くなった人が葬られているお墓です。

また、亡くなった人が身に着けていたと思われる勾玉などの装身具も発見されました。

1 号墳の石室（北から）

1 号墳から出土した須恵器（壺）

3 号墳石室（南西から）

3 号墳から出土した装身具
（①②管玉③勾玉 ④⑤ガラス玉 ⑥土玉 ⑦耳環）

4 号墳から出土した須恵器
（ふた付き壺）

4 号墳石室（北東から）

古墳の名称	築造時期	形状	墳丘規模 (m)	石室の大きさ (m)	
				長さ	幅
1 号墳	7 世紀前半	方墳	12.5×15.0	5.3	1.2
2 号墳	7 世紀前半～中頃	円墳または方墳	直径約 10	4.1 以上	1.15
3 号墳	7 世紀前半～中頃	円墳	直径約 12	4.6	1.12
4 号墳	7 世紀前半～中頃	円墳	直径 14	5.16	0.96
5 号墳	不明	円墳	直径 10	不明	不明
6 号墳	7 世紀末～8 世紀初頭	円墳	直径 6	2.1（墓坑）	0.6（墓坑）

今回の調査で確認された古墳一覧表

江戸時代の四日市代官所跡（約410～150年前）

現在の市内中心部は、享保９（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代になると、三重県庁等として使われていましたが、明治９（1876）年にすべて焼失しました。

下の写真は、平成11(1999)年の発掘調査で見つかった橋の橋脚です。

代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）

茶碗

肥前国（現在の佐賀県）で作られた茶碗です。

外面に描かれているのは、雪の結晶の形から生まれた「雪輪文」という模様です。

天候によって起こる自然現象の雪は豊作の前兆とされ、人々に喜ばれる縁起の良いシンボルでした。

四日市代官所跡出土

表紙の土器　下之宮遺跡出土　輸入椀

下之宮遺跡（大矢知地区下之宮町）の試掘調査※で発見された室町時代（15世紀後半）の青磁の椀（小片）で、明（今の中国）から輸入された高級品です。

椀の底には、昔の中国の官位にちなんだ「三槐」の文字がスタンプで押されています。

※試掘調査・・・遺跡内に道路や建物をつくる場合に、事前に地下の埋蔵文化財の状況を調べる調査です。

コラム　糠塚古墳群で発見された須恵器

（羽津地区南いかるが町）

今年３月の「額突山市民緑地まつり」に向けた整備作業中に突然発見された土器です。土器は、くるべ古代歴史館へ持ち込まれ、７世紀前半の須恵器であることがわかりました。教育委員会で調査したところ、新たに４基の古墳が発見されました。

なお大正時代には、お隣の今の四日市北警察の場所から、同じ７世紀ごろの龍の模様がデザインされた大刀が発見され、現在は東京国立博物館で保管されています。

向かい合った龍をイメージしているよ

糠塚古墳群で発見された須恵器

◆場所　四日市市立図書館　２階展示コーナー

◆編集　四日市市教育委員会　社会教育・文化財課

◆発行　四日市市教育委員会　令和３年７月28日